

「四季・植物」 16 柿

学名 *Diospyros kaki* L. f.

カキノキ科の落葉高木

名前の由来については様々な説があり、はっきりしない。

郷土資料から見た「柿」のあれこれ

柏崎で「八珍^{はっちん}」の名で親しまれている柿は正しくは平核無^{ひらたねなし}といい、新潟県原産の代表的な渋ガキである。種子がなく大変珍しいため、越後の七不思議に加える八番目の不思議という意味から「八珍」と称したといわれる。平核無は生産地によって商品名が違い「おけさ柿」「庄内柿」の名もあり、県内では商品名を「おけさ柿」に統一しているが、柏崎では「八珍」の名が一番なじみぶかい。

新道では昭和26（1951）年に山林を開墾し4000本の苗木を植えて柿の栽培を始め、出荷は昭和33（1958）年からされるようになった。平成11（1999）年には柿の木3500本以上から160トンの収穫があり、その多くは北海道に出荷されている。

柿は昔から身近な木であったため言い伝えも多く、柿の木から落ちると死ぬという俗信は日本各地にある。果物の豊作を祈願する行事「成木責め^{なりきませ}」で、柿の木だけを責める「柿の木責め」をする地域も柏崎にはある。

参考資料

「図説 樹と花の大事典」	植物文化研究会・雅麗編	1996	「越後・佐渡 食彩探訪」	木原尚著	1998
「日本大百科全書」	小学館発行	1994	「柏崎歳時記」	山田良平著	1957
「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「新潟県大百科事典」	新潟日報事業社	1984
「果樹園芸大百科」	農山漁村文化協会発行	2000	「わたしたちの柏崎市」	柏崎市小学校長会発行	2001